



評

語

品

特別
イ 4
3163
204



貴
44
3163
204



萍の跡序

浮きの跡をたづねてゆくも、
大寐菴主も人も、
ふれ耳よ入てきり、
さうじくかたは、
ふし、
い、
江尾に校をともめ、



ーかーくろくあんーさーまのーかまのーは
 さまーらーのーはーかーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま

風雲の金
 本問抄法
 ー
 ー

さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま
 さまーのーかまーのーかまーのーかま

Handwritten text in cursive script, likely a letter or journal entry, covering the right page of the open book.

Handwritten text in cursive script, continuing from the right page, covering the left page of the open book.

依る所のあはれに
 文化の十四年
 八月の陣どくろ
 大森菴立綱

目次

- 楽浪之浜海 鳥海
- あまごゆり
- 曝井 手綱濱
- 潮来村
- 時平大明神
- 比禮振山乃化石 天草人
- 道遠院内府公鷹の
- 咲眉春ハ彦火々出見命の考
- 河蝦ハ河鹿の化一たう
- 頭
- 磯前 八十之湊
- 網浦
- 行方郡
- 高房神
- 菖蒲の前
- 小篠敏が八頭蛇の話
- 稲負鳥
- 端出繩
- 湊曾 阿太
- 麻呂



うきよのりや

樂浪之淡海

鳴海

淡海 大寂菴立綱著

樂浪ハもと地名少く滋賀郡にあり。書紀ハ後浪郷萬葉に樂浪海
 樂浪之國津御神神樂浪之大山守ふとみえたり。千載集ハ
 「あまや志賀乃都ハあまを」を著ふがの山橋ふとあま
 などなりハ滋賀郡ハ樂浪の國少く志賀乃都のこゝろハそれの
 海とつひあまべし。それたりやぐあまの海の冠辞とありたる
 あまべし。後も鳴の海と稱するに記に於是其忍熊王與伊佐比
 宿禰共被追迫乘舟浮海歌曰伊奢阿藝布流玖麻賀伊多
 互波波受波迹本杼理乃阿布羨能宇羨迹迹豆岐勢那和

夫妻

鳥居

慈門禪尼

東儀氏

隱士茂胤

讀棟梁集

音妻 富士山

娶 婚 嫁

古手屋

棉衲禪師并三女の

餅とゆぐたといふ

東都の稱呼 浅間の名義



八坂ふじふとゆきくみひらり。今こに出きか苗ハ人のよきん
ふ中山道ノ摺針嶺なる望湖堂よりみるやふあり。ワガ友の苗
あふらるるくそれをいふのよきとよき。ここに物生山ありハ佐
和山ノほらむとて度根ハ此山ノ西ありまふと。八坂ハそれ度根
の西なり。ねまてゆきの眺望をこれ磯崎のワリよりハ坂まてと
とゆき。それ中ふる此物生山のほらむ大洞よりみるやふありと
第一とみるやふ。さうしきしきしき。ワガ郷里のよきまふかんれ
あふらるる

古今和歌集大歌新津新とあふらるる。今こにふるまふては
ふるむるをくし。ゆるゆるのゆるきく。ゆるゆるあふらるる。ゆるゆる
ゆるゆるのよきと。この初め文字あふらるる。あふらるるゆるゆるの他國

乃いよきもあふらるる。あふらるるのよきと。ふるまふては國名あふらるる。ゆるゆるあふらるる
ふるゆる乃假字のなふるまふ。あふらるるゆるゆる。ふるゆるゆるあふらるる。ふるゆるゆるあふらるる。ふるゆるゆるあふらるる
香郡に大箕。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる
なり。大箕より畝野まで。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる
乃驛なるゆるゆる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる
ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる。ふるゆるあふらるる

網浦

萬葉集一卷章讚岐安益郡之時軍王見山作歌とある長歌
小網能浦之海處女等之燒塩乃まくとつふ網ハ網のあふゆ
つらつと津野乃浦あふらるる。真洲ハつらつと。千蔭ガ畠解小也神祇
式讚岐國網丁和名抄同國鶺足郡に津野郷あり。そと浦

とつきのりいさびる書に祝祭ふまひ一常陸の方言に潮とい
ふとつきのりいさびる書に祝祭ふまひ一常陸の方言に潮とい
ぬれおし高倉下より神武紀曰彼処有人号曰熊野高倉
下忽受天照大神謂武甕雷神曰夫豊原中國猶聞喧擾之
響焉宜汝更往而征之武甕雷神對曰雖予不行而下予平
國之劍將自平矣天照大神曰諾時武甕雷神登謂高倉下
曰予劍曰詭靈今當置汝庫裏宜取而獻之天孫高倉下曰
唯、而寤之明且依夢中教開庫視之果有落劍倒立於庫
底板即取以進云々とあり。さうも板宮とせらるゝ海一き。

この國の方を小潮といふとて板宮と潮宮とが、
かゝるはれをいふまゝさうも板宮とせらるゝ海一き。
さうの名をいふまゝさうも板宮とせらるゝ海一き。
板来之驛とあふまゝさうも板宮とせらるゝ海一き。
浪逆海とて近臨海濱とあふまゝさうも板宮とせらるゝ海一き。
とつた神明祠あり。神躰ハ驛路の鈴なるなり。閑田耕筆に
備とらるゝものも、宮本萱村俗稱 罪言とらるゝ。萱村ハそのとらるゝ
乃名家官本氏の嫡子とらるゝ。祝部の名ハ額
賀長太夫とらるゝ。

高房神

廣嶋にまゝと高房神とゆひしはもと建築槌命とく神代
 巻一云といふに故加遣倭文神建業槌命者則腋とあり。
 倭織とくく免をゆひし神あり。いは倭文神といふも高房
 の沖名ゆひしゆりゆりふあねへ。古語拾遺ふ天宮命更求
 塚塚分阿波齋部率往東土播植麻穀好麻所生故謂之総
 國穀木所生故謂之結城郡上古詔麻謂之総也今為とあり
 好麻之所生故謂之總國といふも房ハ生麻乃義なるべし。高
 高皇産靈命高房根命といふもなるべし。和名抄常陸國
 久慈郡に倭文郷有り。あつて倭織とくく免にゆひし。
 今ハ那珂郡に属しし静村といふ静明神乃祠有り。あふいと
 といふも乃れといふと畧しし布佐といふは静明神の初め

字のくると畧し例ありや。これのまゝとハ磯城島といふも海磯
 馴松といふもて扱ふれぬも逸早振とらるやゆひしはこれに似し

時平大明神

下野國安藝郡に古居村といふ。そあくは村ハ藤相公の御
 霊とてその隣村神岡といふに祭まらるる菅相公といふ隣村ふら
 中あり。此二村男女や縁といふは山事有り。古居村に梅と
 といふ衣類も梅のくれとほはもともも。さつといふ。ハ
 佐野乃近郷ありといふなり

菖蒲の前

伊豆の國あり。いとをまわらぬさつといふ。此名といふをたつ。花の
 頭のわてにキセウといふところあり。二所あり。いふ書あり。つと下乃

古のつづら
 ミトハ三津とあり
 またキセウといふも
 昔左義村のといふも
 一ノ一のつづら

佐用姫の石とかなら
と云ふは世のつゆ
つゆと云ふは
書かみと亀井氏
の語とかなら今世
の語とかなら

良佐用比米都麻胡亦比例布利之用利於返流夜麻能
奈とありと今八其山と比禮振山と云ふと云ふは亀井道載
の語小佐用姫のいとあまると誠ありと今彼山よりまはく
と云ふは乃りいとほりゆとありとのまはるはと云ふ殿に
まらきとありとありと云ふはと云ふに西国ハをいふ女
りるくつとあり別とありはと云ふにまはるはと云ふなり橘梅仙
が西述記にいふと云ふは肥後国天草の人其情あく人の
つと云ふはあまの濱邊ふいづまにいとありと云ふはと云ふ
つと云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは

それゆゆ乃とありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
と云ふはいとありと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは

小篠敏が八頭蛇の語

古事記是高志之八俣速呂智毎年来奥云く身一有八頭八
尾云く神代卷毎年为八岐大地所吞云く也あふやゆはやつ
もてはく遠呂智乃遠八尾あり。呂ハ助辞也。山鳥乃をらの初尾

あどいふまをねる。萬葉集にいとうろきしころ外あま。智は巖のまにほく千早振ふどいふ智とねまぐかひまぐり。蛇ハ尾ふぐれどまきまのふれハ速呂智よりあふま。この八岐大地と漢學者ふどハ八頭乃蛇あふま。山賊の名かりとつ。小篠敏濱田彦文學とのこし。彼國やく殿乃とつとつ。安藝國の境に八面山あり。その蛇の畑に田アハ丁とつ。草刈の鎌とれどやあり。こに八頭乃蛇あり。まねふくあり。それと全身とみ。蛇ハ尾ふれ。其蛇乃いれる。眠ひる。その氣し。吾殿あまの人の蛇とあり。其全身とつ。公にもとせ。このうろきまきまねは。

昔あり。このほと真風とつ。書む草子ふれ。そのころ。石州邑知郡出羽組百姓勘三郎とつ。八頭の蛇にあり。其畑と八面とつ。八頭のつれ。一尺餘とつ。より五寸草より出ま。三尺餘とつ。敏とつ。とねる。

道逸院内府公鷹乃

古今集れる百子鳥ハ諸鳥のつれ。契沖真淵のま。辨とつ。今集れる。今ひとつ。これとつ。高き道逸院内府公乃。乃行とあり。この内府公ハ古今傳授乃人あり。とつ。つれ。



十四



鳥のついでに
写真

モフトカスラヒテツヒニカヘタニヒオクソノサチヲモイロノミコトイカリアガモトノハリニアラスバサナリトモ
遂相易之各不得其利云云兄忿之曰非我故鈎雖多不取
益復急責故度火々出見尊憂苦甚深行吟海畔時逢鹽土
光翁云々海神乃集大小之魚逼問之僉曰不識唯赤女比
有口疾而不来固召之探其口者果得失鈎已而度火々出
見尊因娶海神女豐玉姬仍留住海宮已經三年云々度火
火出見尊已還宮一遵海神之教時兄火闌降命既被危困
乃自伏罪曰從今以後吾將汝排優之民請施息活於是隨
其所乞遂赦之云々あふきのさゆくとくはひり。伉儷と並坐
あはハ豊玉姫もべー。これよりおとへり。乃御名の咲眉主ハ為笑
の義もべー。眉もべー。義もべー。讀法はく惠義須咲満春の
義もべー。その為笑よりハししひひり。釣と得きぬ此大御國と

とてあはれ。兄とふり。あはれ。度火々出見尊と。御名ハ盛葦
津姫命の誓もむひく同巻に如實天孫之胤火不能害即火燒
室始起煙未出之兒号火闌降命次避熱而居生出之兒号度
火々出見尊云々やあつとくこの御名ハ字れ。火々の義ねふ
と含笑とり。多むひり。義とねひく惠備春と。いひく。さ
かの鯛とほり。たふふ。らら。福の神と。すも。か。さ。し。ぬ。鈎
と海幸獵と山幸と書紀よ。い。は。ひ。大御國とえむ。ハ
大さる福。い。福の神とあ。ゆ。つ。り。あ。り。と。並坐。い
へふ。海宮に入。い。豊玉姫とみ。あ。ひ。あ。は。れ。と。さ。せ
り。い。さ。い。咲眉主ハ度火々出見尊と。あ。は。れ。し

端出之繩

細去 れをこまか
ぎりの三言の約を
しりかゝるに俣と
と久米の約をせし
しるべし例あり
又日垣根 りか
あす の約あり
と久米 の意
わと家根 根
根 の意 の
加利の約 の
久 の
り の

和名抄端出之繩與注連同續日本紀カミ九繩端出とあり

出きしとのくもあはと訓と上田秋成イハルシ云志利久米の志

利ハ後ありカキ久米ハ限目なりカキ加伎乃約免カキ後カキ久米は久にカキ

垣根 カキの カキ久ハ約免カキ利と省久米カキ久米カキ久米カキ

ともの カミの カミち免 カミ詞あり カミと カミハ カミ神代卷手力雄命日神と

岩門 カキより引出し カキと カキと カキと カキと カキと カキと カキと カキと カキと カキと

く カキ

へつ カキ

ぶひ カキ 注連繩 カキ

カキ カキ

葉集卷二迎江カキ天皇崩御之時婦人歌小 カキ

とる カキ

訶 カキ

カキ カキ

カキ カキ

カキ カキ

河蝦カキハ河鹿カキの化カキ カキ

お カキ

神とありと紀の一書に投其杖是謂岐神此云布那とありしと黄
泉の條一書に投其杖曰自此以還雷不敢來是謂岐神此本
名号来名戸之祖神鳥とありこの御名乃来名戸なりしと
無来と止るを意なり戸ハ門なりしとを標かり衝立と
あり道と標とたてて限りと示ししを意と御名とを教あり
これとありとの意とありこれハ登利為ハとありしと神の
つらとありとの意とありこれハを教ありしとありしと
標とありしとありしと為ハとありしとありしと式ハ開遣唐船
居祭社住吉とあり開船居時とありしと船居とハ湊と船とあり
置處をり歌とあり家居雲居とありしと古書にハ鳥居と
ありしとありしと伊勢西宮儀式帳にありしとありしと御門十一間

母内記といく江家
次第神事記といく
三の鳥居より第三
第一の鳥居より第三
二の鳥居より第三
三の鳥居より第三
古記ハ第三の御門と
ありしと

下小於菅御門三間於不菅御門八間とありこの於
不菅御門といふものいよの鳥居ありしと後のものれとあり
西宮梅内記といふものハ三鳥居よりハ俗稱なり古記ハ荒垣の
御門も板垣乃御門といふものありしとありしと社とありしと
いよのハ屋代ありしと上古ハ神の鎮座とありしとありしと高くし
木と植とありしとありしと改かきこ乃鳥居とありしとありしと端出之繩と
ありしとありしと森とありしとありしとありしとありしと宮ハ
ありしとありしと御屋なり天照大御神の御門ハありしと
ありしと宮柱太敷立而齋奉なりしとありしとありしとありしと
ありしとありしと御門ありしとありしと上下のありしとありしと鳥居とありしと
ありしとありしと神の御門とありしとありしと何くのありしとありしと杜の字と

いからしむる常
陸風土記に古者自
相授国足柄岳坂
東諸縣總領我姬
當時不言常陸唯
新治筑波茨城那賀
久慈多珂國^トこ
あるといふ^トこ
陸奥の^トこ
みく陳ト^トか
び

のよあけあき海の^トトを略^トまらぬ^トの^ト其^ト所^ト此^ト
と^ト略^トまらぬ^トの^ト其^ト所^ト此^ト
りか^ト天^トつ日^トは^トこの大宮^トを^トり^トまらぬ^トの^ト其^ト所^ト此^ト
ぬ稱^トあり^ト外^ト國^トを^トり^トまらぬ^トの^ト其^ト所^ト此^ト
四^ト方^トを^トり^トまらぬ^トの^ト其^ト所^ト此^ト
上^トを^トり^トまらぬ^トの^ト其^ト所^ト此^ト
と後^トを^ト書^トじ^トも^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^ト
と先^トと^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^ト
こ^トい^ト東^ト都^トと^トか^トき^トら^トら^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^ト
福^ト坂^ト上^ト郎^ト女^トに^ト報^ト歌^ト安^ト万^ト射^ト可^ト流^ト比^ト奈^ト能^ト都^ト夜^ト故^ト尔^ト安^ト
米^ト比^ト度^ト之^ト可^ト久^ト古^ト非^ト須^ト良^ト波^ト伊^ト家^ト流^ト思^ト留^ト事^ト安^ト里^トと^トい^トふ^トも^ト

をいひ^トいで^ト國^ト府^トと^ト庚^トの都^トと^トい^トふ^トも^ト
後^ト乃^ト書^トじ^トも^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^ト
乃^ト書^トじ^トも^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^ト
集^トふ^トる^トの^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^ト
本^ト居^ト大^ト平^トが^ト都^ト夜^ト故^トの^トい^トふ^トも^ト
長^トを^トり^トまらぬ^トの^ト其^ト所^ト此^ト
考^トふ^トる^トの^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^ト
と^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^ト
め^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^トい^トふ^トも^ト
中^トを^トり^トまらぬ^トの^ト其^ト所^ト此^ト

紀より駿河浅間も木華開耶姫と云ふ富士もねれど伊勢朝明
郡より布自神社櫻神社相並甲斐国金櫻神社に此神と云ふ
ことさういふ開耶乃轉るる。或ハ咲簇のよしの約くわ
りいふ。ついでふつとてねふささる浅間ハついでこの略さ
あさくらの何を畧ささるこのゆらと通音をいふ櫻の轉り
さういふあさくらの大宮ル甲斐の吉田ル浅間大神と云ふ富士の
神ハ木華開耶姫命なる。火出の義ハ火出見命と云ふ開
耶姫命と云ふゆゑなる。さういふ御名ついで火出見命
と云ふこといふ。さういふ富士の神ハ女体なる。開耶姫命
なる。さういふ竹取物語ハかぐや姫を後ついで天女ハついで
けり。さういふことさういふ開耶姫命と云ふことさういふ

知士ハ通音さういふ萬葉集乃さういふ引くこの例ハ
これ此富知を神社と云ふ富知ついでさういふ草書ハついでさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
草書の士ハさういふさういふさういふさういふさういふ

この條さういふのさういふのさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ

うたへてさういふ
初編終

芳水處士 平暗保書丹



大森菴上人著書梓行目錄

うさくされわく 初編 一冊
これら人の法名やうさくされわくは、
初編の法名を記し、その後の法名は、
いづれも法名のきりかへし、
いづれも法名のきりかへし、
いづれも法名のきりかへし、

ねねねく 二編 三編 嗣出

伊勢物語昨非抄 三卷 近刻
これ、古人の諸註ふかきり、
これ、古人の諸註ふかきり、
これ、古人の諸註ふかきり、
これ、古人の諸註ふかきり、
これ、古人の諸註ふかきり、

玉挿頭 小本一冊 近刻

この書は冠辞考詞草小苑等ゆゑに枕詞を
濱田の故殿乃君と申すは、
乃ら、いさゝか、いさゝか、
いさゝか、いさゝか、
いさゝか、いさゝか、

志れづぐさ 一冊 已刻

これ、親鸞聖人五百五十年忌乃、
これ、親鸞聖人五百五十年忌乃、
これ、親鸞聖人五百五十年忌乃、
これ、親鸞聖人五百五十年忌乃、
これ、親鸞聖人五百五十年忌乃、

三才觀白辯 一冊

これ、親鸞聖人の法名を記し、
これ、親鸞聖人の法名を記し、
これ、親鸞聖人の法名を記し、
これ、親鸞聖人の法名を記し、
これ、親鸞聖人の法名を記し、

とろく日記 一冊

この書はとろく日記の月と日とを記し、これに色と形を記し、たゞ
名ばかりを記す時、その記す所の地や、その時を記す
とろく日記の標注を記す、名勝多し、不れは
本邦園又人の標注を記す、いふふふふふふふ
いふふふふふふふ

萍蹟記聞 二冊

此書はとろく日記の月と日とを記し、これに色と形を記し、たゞ
名ばかりを記す時、その記す所の地や、その時を記す
とろく日記の標注を記す、名勝多し、不れは
本邦園又人の標注を記す、いふふふふふふふ
いふふふふふふふ

真宗免さすし書 一冊

此書は浄土真宗の門葉、とろく日記の月と日とを記し、これに色と形を記し、たゞ
名ばかりを記す時、その記す所の地や、その時を記す
とろく日記の標注を記す、名勝多し、不れは
本邦園又人の標注を記す、いふふふふふふふ
いふふふふふふふ

真宗應問録 上下

此書は一宗安心の要を僧俗より上人に問答する
とろく日記の標注を記す、名勝多し、不れは
本邦園又人の標注を記す、いふふふふふふふ
いふふふふふふふ

和讃嘆得録 一冊

此書は三帖御和讃御製造乃次房、青趣を
とろく日記の標注を記す、名勝多し、不れは
本邦園又人の標注を記す、いふふふふふふふ
いふふふふふふふ

文化十四年丁丑十月

角丸屋甚助

江戸新橋南大坂町

製本所

伊執力屋忠右衛門

藏板

藏板

